



次世代型教育モデルに関する調査研究

～主体的・協働的に学ぶ学習・指導方法の研究～【中間報告】

埼玉県立総合教育センター教育課程担当



1 はじめに

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（諮問）は、「今後必要とされる資質・能力を子供たちに育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要がある。」と述べている。

埼玉県教育委員会では、これまでも、未来を拓く「学び」推進事業や「考え、話し合い、学び合う学習」推進事業等により、児童生徒の主体的な学びの充実に向けて取り組んできた。これらの取組は、授業手法の改善や児童生徒の学習状況に一定の成果を上げてきた。今後、さらなる推進が求められる。

2 研究の目的

当センターでは、こうした国や県の動向を踏まえ、次世代型教育モデルを創造するプロジェクトを立ち上げた。本調査研究は、その一環として行うものである。各教科等の特質に応じて、新たな学びのモデルを開発し、効果的な活用モデルの提案を行う。さらに、この研究によって得られた成果を当センターが行う各研修に反映させ、全県に広めていくことが本調査研究の目的である。

3 研究の内容

本調査研究では、以下の柱を中心とし、学校段階や教科の特質を踏まえて、主体的・協働的に学ぶ学習・指導方法を研究する。

- (1) 反転授業（既存コンテンツの有効な活用、新コンテンツの開発、反転による事前学習を経た本時の授業デザイン、汎用性のあるモデルの開発、効果の検証等）
- (2) 問題解決的な学習（既存スタイルの再検討、単元モデルの例示、教科の特質を踏まえた汎用性のあるモデルの開発、効果の検証等）
- (3) グループ学習（上記（1）（2）への有効な取り入れ方、教科の特質を踏まえた有効なグループ学習の検討、効果の検証等）

4 研究の方法

2カ年の調査研究とする。次の各教科等で研究協力委員を委嘱し、所員と協力して調査研究を行う。

- (1) 小中学校：国語、社会、算数・数学、理科、音楽、図工・美術、体育・保健体育
技術・家庭、外国語活動・外国語、道徳
- (2) 高等学校：国語、地理歴史・公民、数学、理科、家庭、外国語

5 各教科等の取組

【小中学校部会】

教科等	研究テーマ等	取り組んだ内容
国語	効果的な課題設定、協働を生み出す教材、対話的な学びを生かした単元構想	<p>○研究テーマに基づき、「効果的な課題設定」「協働を生み出す教材」「対話的な学びを生かした単元構想」の3つ視点で、以下の研究を行った。</p> <p>(1) 「読みの系列」による系統的な「読むこと」の学習指導（小学校）</p> <p>(2) 他者との関わりを工夫した「書くこと」の学習指導（小学校）</p> <p>(3) 効果的なグループ活動による「読むこと」の学習指導（中学校）</p> <p>(4) 既習事項を日常生活に位置付ける古典教材の指導（中学校）</p>
社会	深い学びに結びつける課題解決学習	<p>○社会的な見方・考え方の整理と、思考が変容・深化する問いに視点をあてて取り組み、深い学びに結びつける課題解決学習を実践した。</p> <p>○検証授業は、社会的な見方・考え方を整理して行った。</p> <p>○また、課題解決学習において、思考ツールを用いた思考の可視化について研究を行った。</p>
算数・数学	「問題場面における疑問や問いの発生」「日常事象の数学化による問題の設定」を工夫し、児童生徒が主体的に学ぶ学習の在り方	<p>○「問題場面における「疑問や問いの発生」、「日常事象の数学化による問題の設定」を工夫し児童生徒が行う学習・指導の在り方について、実践を行った。</p> <p>○教師が問題場面の提示の仕方を工夫して、児童生徒が主体的に問題解決に取り組むことができるような授業研究を行った。</p>
理科	主体的・協働的な学びを計画的に取り入れた単元づくり・授業づくりの工夫	<p>○単元計画表や授業設計シートを活用して、主体的・協働的な授業づくりについて調査研究を行った。</p> <p>○研究協力委員の実践から、(1) 児童生徒の疑問から単元全体の問題を創出すること。(2) 児童生徒の思考に沿った問題解決の授業計画を立てること。(3) 学習内容を活用する時間を意図的に位置づけること。の3点が重要なポイントとして上げられた。</p>
音楽	問題解決的な学習や効果的なグループ学習の取り入れ方等	<p>○小学校では、「歌唱・音楽づくり・鑑賞」、中学校では「鑑賞」の検証授業を行った。検証授業からは、授業者が、小・中・高等学校での『連続した学び』を意識でき、今後も他の領域や題材にも広げていける可能性が見出せた。</p> <p>○表現領域でのエキスパート資料（知識構成型ジグソー法）や、ICT活用、反転学習も含めて研究を行った。</p>
図工・美術	協調学習（知識構成型ジグソー法）を活用した指導方法の研究	<p>○主体的・対話的で深い学びという視点で学習指導を捉え直し、資質・能力の確実な育成を目指した指導方法の研究を行った。</p> <p>○図工や美術において、まだ取組や実践報告が少ない知識構成型ジグソー法を活用した検証を行った。</p> <p>○形・色・道具を3つのエキスパート活動とし、小学校第2学年の題材を扱った授業を中心に検証した。</p>

体育 ・ 保健体育	実技における効果的な知識構成型ジグソー法の授業モデルの提案	○保健分野などの教室で行われる授業モデルは徐々に提案されているが、グラウンドや体育館などで行われる実技の授業モデルは非常に少ない。そこで、実技を伴う授業でも、より効果的に授業が展開できるよう、単元計画や授業の展開例、評価の方法について研究を行った。
技術 ・ 家庭	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習・指導方法の研究・開発	○研究協力委員が実践している題材の学習指導計画をもとに、学習活動のまとまりごとに「主体的・対話的で深い学び」の視点での見直しを図り、学びの質を高める工夫・改善を行った。 ○実践した授業改善を振り返り、その視点や効果的な手順等を整理し、活用できる資料作成について検討を進めた。
外国語活動 ・ 外国語	問題解決的な学習やその中で有効なグループ学習の研究	○主体的・協働的な学びに係る先行事例等についての情報収集を行い、それらを踏まえて学習指導案を作成し、授業を実施した。 ○研究を進める中で、児童生徒の積極性や協調性が高まり、個々の学びが深まる様子が見られるなどの成果があった。
道徳	アクティブ・ラーニングを視点とした授業の工夫	○「主体的・対話的で深い学び」の視点から話合いの深まりを意識した指導（小学校）及び多様な視点を取り入れた指導（中学校）についての授業モデルの研究を行った。 （１）立場を明確にした話合い（多面的・多角的な視点）（２）自我の関与（自分を重ねる）（３）ねらいとする価値についての考えを問う発問（児童生徒の変容を見取る）（４）自分自身への振り返り

【高等学校部会】

教科	研究テーマ	取り組んだ内容
国語	深い学びにつながる、生徒主体の授業モデルに関する研究	○生徒が自ら課題を見つけ、能動的に活動しながら、学習の深まりが確認できる取組が、深い学びの達成につながると仮説を立てた。 ○リフレクションシートの活用（『大鏡』）、ホット・シーティングによる活動（『山月記』）、テスト問題の作成（『舞姫』）という3つの取組から、生徒が主体的に課題を解決する授業モデルの研究を行った。
地理歴史 ・ 公民	反転学習、多面的・多角的な考察を生む教材の作成、課題探究的な学習のより一層の重視のために	○地歴公民科においてどのような反転学習教材が活用できるのか、その作成方法や内容などについて検討を行った。 ○実際に反転学習教材を試作するとともに、同時に活用する補助教材の内容や、授業展開案についても検討を行った。
数学	「ひとりジグソー法」による振り返り学習、アクティブ・ラーニングに関する教員研修プログラム	○「ひとりジグソー法」の内容 問題演習で数学的に考える資質・能力の育成を目指し、発想、立式、計算の各観点で振り返り学習を行うワークシートを開発した。 ○アクティブ・ラーニングに関する教員研修プログラムの内容 知識構成型ジグソー法の「型」の理解を目指した教員のための教材を開発した。生徒の資質・能力の育成に関する教員一人一人の工夫を全体で共有するプログラムを開発した。

理科	主体的・協働的な学びを引き起こすための授業方法の研究	<p>○各研究員が普段実践している授業を基に、主体的・協働的な学びを引き起こすための授業方法について考察した。</p> <p>○授業を定型化することで、授業者の負担軽減と生徒の主体的・協働的な学びの日常化を目指した。</p>
家庭	「衣生活」に焦点を当てた家庭科における主体的・対話的で深い学びを通して、身に付けさせたい資質・能力を育成するための指導の研究	<p>○衣生活の内容を取りあげ、深い学びにつなげるための指導計画の見直しと、生徒の授業の意識分析から始めた。分析結果より、小中学校の学習の復習教材、見通しを持って学習に臨むための教材等を ICT を活用して作成した。</p> <p>○生徒の学びの変容を可視化するためのワークシートの工夫や作成した教材の効果的な活用が今後の課題である。</p>
外国語	技能統合型アクティブ・ラーニング授業の研究～ペア・ワーク、グループ・ワークに焦点を当てて～	<p>○技能統合型の言語活動を通して、課題を発見し、考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習・指導を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるであろうとの仮説を検証した。</p> <p>○生徒同士の意見交換や、課題解決能力を生かした授業を行い、授業前後に質問紙調査を行った。その結果、「主体的・対話的で深い学び」が実現できることが明らかになった。</p>

6 成果と課題

(1) 成果

ア 先行研究等から調査研究の方針を明確にすることができた。

本調査研究は、各教科等の特質に応じて具体的な研究を行い、主体的・協働的に学ぶ学習・指導方法を研究することである。また、その成果を各研修に反映させ、全県に広めていくことを目的としている。第1回研究協力委員会において、東京大学 大学総合教育研究センター 教授 白水 始氏による「評価とアクティブ・ラーニング」と題した基調講演を実施し、研究協力委員や担当指導主事が各教科における調査研究の方向性を確認することができた。各教科等において、児童生徒が主体的・協働的に学ぶための様々な指導方法について先行研究等から知見を深めることができた。

イ 各教科等において授業実施を行い、実践例を蓄積することができた。

各教科等において反転学習、グループ学習、知識構成型ジグソー法等の指導方法を実践し、多くの実践事例を得ることができた。実践を通して、児童生徒の反応やワークシート等の記述から効果や改善点がわかり、次年度への見通しを持つことができた。

(2) 課題

研究成果を研修に位置付け、広めていくという目的から、児童生徒の学びを見取り、指導方法の改善充実が図れるような効果検証方法の工夫が課題である。

7 おわりに

本年度の調査研究は、国の動向を踏まえつつ、先行事例を調査し、主体的・協働的に学ぶ学習・指導方法の実践を積み重ね、そこから効果的な活用モデルを探っていく研究を中心に行った。実践や調査から見えてきた成果と課題を基に次年度の研究を進め、その成果を本センターの実施する研修に反映させる。

研究報告書は、埼玉県立総合教育センターのホームページ (<http://www.center.spec.ed.jp/>)から閲覧できます。